

第7回一億総活躍国民会議 発言要旨

大日方 邦子

- ・子育て・介護の人材不足が指摘されているが、量（人材数）だけではなく、質を確保する視点も大切であることに留意すべき、と考える。
- ・賃金アップだけでは本質的な待遇改善にはならないということをあえて申し上げたい。
- ・介護人材難の理由としては、賃金の低さ、労働環境の問題もあるが、「働きがい」を求める声も大きい。
- ・働きがいを感じられるポイントの一つは、自分がやっていることが他の人の幸せに繋がっているという気持ち、自己肯定感を持てることと考える。
- ・介護職として働く人たちが、サービスの受け手である介護を受けるお年寄りの「幸せ」を提供できる存在になるような制度にしていくことも、介護人材の確保に置いては重要。
- ・介護は「人がその人らしく、幸せに生きられる」サービスを提供することが目的のはず。これは保育、教育にも共通する問題意識として考えるべき。
- ・介護サービスの内容が「命」「健康」に直結することはもちろんだが、さらに「幸福」「安心」を提供するものである。「齢をとっても最後まで自分らしく生きられる社会」であるという安心感を国民が感じられることが大切。
- ・介護保険の仕組みのなかで、介護度が下がる、すなわち健康状態が改善されると、介護報酬が下がり、結果として介護事業者の収入が下がることになる今の制度には問題が大きい。むしろ要介護度が改善したらインセンティブを与えるような仕組みにするべき。誰だってオムツをはかされてベッドで寝たきりよりも、もう一度、自分でトイレに行きたいと願っている。高齢者の幸せは介護士のモチベーションアップ、やりがいにつながる。
- ・質（中身）が重要なのは障害者の就業促進でも同様に重要。多様な人材を企業に在籍させる（＝ダイバーシティ）だけでなく、多様な人材が混じり合って、どの人も活躍できるコミュニティを作ること（＝インクルージョン）まで行うことが必要。障害者雇用も高齢者の幸福度を追求した介護サービス事業も、事業者側がこれらを「義務」と捉えるのではなく「ビジネスチャンス」と捉えて積極的に取りくむ方向に導くことが、一億総活躍社会では求められている。
- ・成長と分配の好循環が、国民の「幸福感」「安心感」につながるという認識を多くの国民が持てるようになることが重要。サイクルを回す潤滑油になる。